

資 料 編

- 用語解説
- 第4次大田市地域福祉計画・地域福祉活動計画 策定委員会
- 「策4次大田市地域福祉計画・地域福祉活動計画」策定の経緯
- 第4次大田市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定に向けた市民アンケート調査報告書

◆用語解説

基本方針	項 目	説 明
基本方針 1	福祉教育	身の回りの人々や地域との関わりを通してどのような福祉課題があるかを学び、その課題を解決する方法を「自分事」として考え、解決のために行動する力を養うことを目的としたもので、地域で普段の暮らしを営む身近な他者を対象として、一人ではなく皆で話し合いながら実践していくことで、人と人との関わりについて考えるきっかけとなる。
	ライフステージ	人の一生のうち、年代にともない変化していく段階のことをいい、乳幼児期、児童期、青年期、壮年期、老年期等に分けられる。
	あいサポーター	障がいの特性や必要な配慮などを理解して、障がいのある方を手助けする人。特別な技術などを習得して支援するのではなく、日常生活のなかで障がいのある方が困っている時などに、ちょっとした手助けを行う意欲のある方なら誰でもなることができる。「あいサポーター研修」を修了すると「あいサポートバッジ」が交付される。
	NPO	Non Profit Organizationの略で、民間や一般の市民により自主的に構成された営利を目的としない活動を行う民間の組織のこと。特定非営利活動促進法（NPO法）に基づき設立された組織を「NPO法人」という。
	フレイル	加齢により心身が老い衰えた状態のことで、健康な状態と日常生活でサポートが必要な介護状態の間を意味する。早く介入して対策を行えば元の健康な状態に戻る可能性があるが、高齢者のフレイルは、生活の質を落とすだけでなく、様々な合併症を引き起こす危険がある。
	コミュニティソーシャルワーカー（CSW）	コミュニティソーシャルワーク（※）を行う専門職。 （※）「コミュニティソーシャルワーク」：誰もが社会とのつながりの中で幸せに暮らすことができるように、支援を必要とする一人ひとりに対する個別支援と、その人々が排除されることのない地域づくりに向けた地域支援を結びつけて行うソーシャルワーク実践である。
	地域における公益的な取り組み	社会福祉法人には高い公益性があり、社会福祉事業及び公益事業を行うに当たっては日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者に対して、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するように努めることが義務付けられており、地域の福祉ニーズ等を踏まえ法人の自主性、創意工夫による多様な地域貢献活動が求められている（社会福祉法第24条第2項）。
基本方針 2	8050世帯	ひきこもりの長期化、高齢化から引き起こされる社会問題。主に50代前後のひきこもりの子どもを、80代前後の親が養っている状態を指し、経済難からくる生活の困窮や当事者の社会的孤立、病気や介護といったことが問題視されている。
	ヤングケアラー	家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められるこども・若者のことで、ヤングケアラー自身が置かれる状況は表面化しにくく成長や教育を受ける権利を侵害すると言われている。
	シェルター	災害のほか、失業などにより緊急的な住居の必要性に対応するため、ホテルなどを活用した一時避難所のこと。また、暴力から逃れた女性のための緊急一時避難場所や虐待などにより家庭にいられないこどもの一時避難所のこと。
	地域共生社会	地域の多様な人と資源が、世代や分野を超えてつながり、全ての人が共に創っていく地域社会のこと。
	重層的支援体制	地域住民の複合・複雑化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制。「相談支援（属性を問わない相談支援、多機関協働による支援、アウトリーチ等を通じた継続的支援事業）、参加支援及び地域づくりに向けた支援」を一体的に実施する仕組みを重層的支援体制整備事業という。
	ソーシャルワーク	社会福祉の制度などのもとで、人々が社会生活上の課題を自ら解決し、豊かな暮らしを可能にすることを旨とするために、福祉の専門技術や知識をもつ支援者（ソーシャルワーカー）によって展開される実践活動及び援助技術の総称。
	アウトリーチ	支援が必要であるにも関わらず届いていない人に対し、行政や支援機関等が積極的に働きかけて情報・支援を届けること。

基本方針 3	介護支援専門員 (ケアマネジャー)	介護保険サービスの利用者やその家族からの相談に応じ、その心身の状況やニーズを適切に把握し、利用者にふさわしい介護サービス計画（ケアプラン）を作成するとともに、介護保険サービスが的確に利用できるような調整を行い、要介護者などが自立した日常生活を営むうえで必要な援助を行う専門職。
	認知症 サポーター	市町村を中心に実施されている認知症サポーター養成講座の受講者で、認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域や職域において（できる範囲で）認知症の人や家族を支援する人。
	認知症カフェ	認知症の人やその家族、専門職や地域の人など誰でも参加でき、相互に情報を共有し、お互いを理解し合う集いの場。和やかな雰囲気なか、参加者同士で茶話会や体操、創作活動等のレクリエーションなどを行っている。
基本方針 4	ゲートキーパー	悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聴いて、必要な支援につなげ、見守る人（命の門番）。悩みを抱えている人は、混乱して自ら助けを求めることが難しい状況に陥ることがあるので、そのような時に話を聴き、相談窓口や医療機関につなげ、自死に傾くことにストップをかけるゲートキーパーの役割は重要である。
	避難行動 要支援者名簿	災害時に自ら避難することが困難な、避難行動要支援者（要介護者、障がい者、ひとり暮らし高齢者等）を掲載した名簿。過去の大災害により、多くの高齢者や障がい者が犠牲となった教訓を今後に生かすため、災害対策基本法が改正され、災害時の避難支援や安否確認のための基礎とする名簿を作成することが市町村に義務付けられている。
	個別避難計画	高齢者や障がい者などの避難行動要支援者一人ひとりの状況に合わせて、災害時に「誰が支援して」「どこに避難するか」「避難する時にどのような配慮が必要になるか」などを記載した個別の避難行動計画。計画に記載されている個人情報については、平時は本人等の同意がある場合に提供するが災害時は本人の同意を要しない。
	ハザードマップ	自然災害による被害を予測し、その被害範囲を地図化したもの。土地の地形や地盤の特徴をもとに、被害想定区域、避難経路や避難場所、防災関係施設の位置などの防災地理情報が地図上に図示されている。

第4次 大田市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会

◆策定委員

区分	所属機関	役職	氏名
学識経験者	島根大学	教 授	加川 充浩
保健関係	島根県県央保健所	総務保健部長	深崎 美樹
福祉（高齢者）関係	大田市介護サービス事業者協議会	副会長	神崎 京子
福祉（障がい者）関係	亀の子サポートセンター	課 長	土江 久美
福祉（子育て）関係	大田市保育研究会	副会長	海原 泉
地域福祉関係	大田市社会福祉協議会	会 長	知野見清二
	大田市民生児童委員協議会	副会長	宇谷 裕子
市長が認める者	大田市シニアクラブ連合会	事務局員	三代 郁子
	大田市自治会連合会	会 長	安藤 彰浩
	大田市青年協議会	会 長	金子 敦司
	おおだふれあい会館	指導職員	月森 美帆
	ほっとスペース ゆきみーる	室 長	高橋 賢史
	大田地区保護司会	副会長	岡田 三史
	大田市成年後見支援センター	運営委員長	中井 洋輔

◆オブザーバー

再犯防止関係	松江保護観察所 処遇部門	保護観察官	延廣 隆範
--------	--------------	-------	-------

◆庁内検討会議

大田市健康福祉部	地域福祉課
	子ども保育課
	子ども家庭支援課
	健康増進課
	医療政策課
	介護保険課
大田市社会福祉協議会	

■「第4次大田市地域福祉計画・地域福祉活動計画」策定の経緯

◎策定スケジュール

実施日	実施項目	内 容
令和6年 5月2日（水）	第1回庁内検討会議	・計画概要、策定体制、作業スケジュール等について ・現行計画の評価作業について
6月26日（水）	第2回庁内検討会議	・第1回計画策定委員会の開催について（資料等） 現行計画の評価 数値目標 市の現状データ
7月11日（金）	第1回計画策定委員会	・地域福祉計画・地域福祉活動計画について ・第4次計画策定にかかる年間計画について ・現行計画の効果検証について ・アンケート内容について
8月25日 ～9月28日	策定委員等ヒアリング （ヒアリング先別紙）	・現在の取組み状況 ・課題
7月1日～31日	市民アンケート調査	・郵送による配布・回収（郵送及びWeb）
9月24日（火） 9月25日（水）	ワークショップ開催	・各地区での取組み状況と課題について ・第3次計画における市社協の実施事業への意見
10月18日（金）	第3回庁内検討会議	・第2回計画策定委員会の開催について（資料等） アンケート調査結果（中間報告） 策定委員等へのヒアリングでの意見 ワークショップでの意見 計画体系 進めるべき方策（素案）
10月29日（火）	第2回計画策定委員会	・第3次計画の評価と分析について ・市民アンケートについて ・事業者ヒアリングについて ・ワークショップについて ・計画体系（案）について ・計画全体の構成（案）について ・アンケート結果について
12月18日（水）	第4回庁内検討会議	・第4次計画の素案について ・第3回計画策定委員会の開催について
令和7年 1月16日（木）	第3回計画策定委員会	・第2回策定委員会からの変更・修正点 ・第4次計画のめざすべき方向性 ・大田市成年後見制度利用促進計画について ・大田市再犯防止推進計画について ・今後の予定について
2月7日～20日	パブリックコメント	・第4次計画（案）

◎策定委員等ヒアリング

分 類	所属・同席会議名	策定委員等	訪問日
高 齢	大田市介護サービス事業者協議会	神崎京子氏	令和 6 年 9 月 9 日
	大田市シニアクラブ連合会	三代郁子氏	令和 6 年 9 月 1 2 日
子ども	大田市保育研究会	海原 泉氏	令和 6 年 9 月 5 日
	ほっとスペース ゆきみーる	高橋賢史氏	令和 6 年 9 月 1 7 日
障がい	亀の子サポートセンター	土江久美氏	令和 6 年 9 月 6 日
	相談支援事業所と障がい者サービス管理者との連絡会		令和 6 年 8 月 2 7 日
地 域	大田市民生児童委員協議会	宇谷裕子氏	令和 6 年 9 月 9 日
	大田市民生児童委員協議会理事会		令和 6 年 9 月 1 2 日
	大田市自治会連合会	安藤彰浩氏	令和 6 年 9 月 1 1 日
その他	おおだふれあい会館	月森美帆氏	令和 6 年 9 月 2 7 日
	島根県県央保健所	深崎美樹氏	令和 6 年 9 月 1 8 日
	大田地区保護司会（松江保護観察所同席）	岡田三史氏 延廣隆範氏	令和 6 年 9 月 1 0 日
	大田市成年後見支援センター運営協議会	中井洋輔氏	令和 6 年 8 月 2 1 日
	大田青年協議会	金子敦司氏	令和 6 年 9 月 1 3 日

第4次大田市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定に向けた 市民アンケート調査報告書

令和6年12月

大田市

目 次

1 調査の概要	1
2 市民アンケート 調査結果	3
(1) あなたについて	3
(2) 住まい・暮らしについて	6
(3) 地域活動について	13
(4) 悩み・不安の相談について	18
(5) 情報サービスについて	22
(6) 地域福祉について	26
(7) 自死・虐待・貧困について	33
3 参考 自由意見	36

市民アンケート結果

1. 調査の実施概要

(1) 調査対象・方法

対 象：大田市民 2,300人（無作為抽出）

(2) 調査期間

調査期間：令和6年7月1日(月)～7月31日(水)

(3) 調査票の配布・回収状況

調査票の配布・回収状況は、次のとおりです。

配布数 (件)	有効回収数 (件)	有効回収率 (%)
2,300	922 (うちWeb回答:134)	40.1 (うちWeb回答:14.5)

【調査対象内訳】

<年代別>

年代	配布数 (件)	有効回収数 (件)	有効回収率 (%)
10～29	166	33 (15)	19.9 (45.5)
30～39	210	58 (31)	27.6 (53.4)
40～49	302	76 (33)	25.2 (43.4)
50～59	310	120 (26)	38.7 (21.7)
60～69	418	188 (24)	45.0 (12.8)
70～79	476	283 (4)	59.5 (1.4)
80～	418	160 (1)	38.3 (0.6)
無回答		4	－
計	2,300	922 (134)	40.1 (14.5)

※（ ）内はWeb回答

<男女別>

性別	配布数 (件)	有効回収数 (件)	有効回収率 (%)
男	1,068	389 (64)	36.4 (16.5)
女	1,232	518 (70)	42.0 (13.5)
回答しない		7	－
無回答		8	－
計	2,300	922 (134)	40.1 (14.5)

※（ ）内はWeb回答

<地区（ブロック）別>

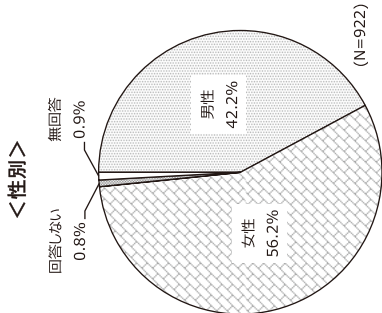
ブロック	配布数 (件)	有効回収数 (件)	有効回収率 (%)
中央(大田、川合、久手、大屋)	758	303	40.0
西部(長久、鳥井、静間、五十猛)	480	181	37.7
東部(久手、波根、朝山、富山)	443	179	40.4
三瓶(三瓶、山口)	99	43	43.4
高山(大森、水上、粗式、大代)	90	30	33.3
温泉津	180	66	36.7
仁 摩	250	104	41.6
その他(「大田市」回答)		1	－
住所記載なし		15	－
計	2,300	922 (134)	40.1 (14.5)

2 市民アンケート 調査結果

(1) あなたについて
ア 性別

問1. あなたの性別に○印をつけてください。

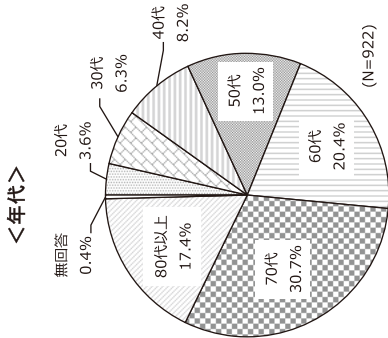
回答者の性別は、「男性」42.2%、「女性」56.2%となっています。



イ 年代

問2. あなたの年代に○印をつけてください。

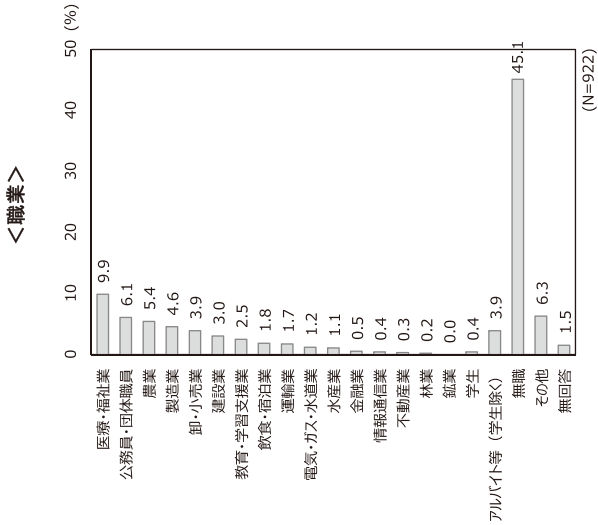
年代別では、「70代」が30.7%と最も多く、次いで「60代」20.4%、「80代以上」17.4%と続き、50代以上が8割を超えています。今回Web回答を導入しましたが、若い層の回答率は伸びていません。



ウ 職業

問3. あなたの主たる職業に○印をつけてください。

職業については、「無職」が45.1%と最も多く全体の約5割を占めています。



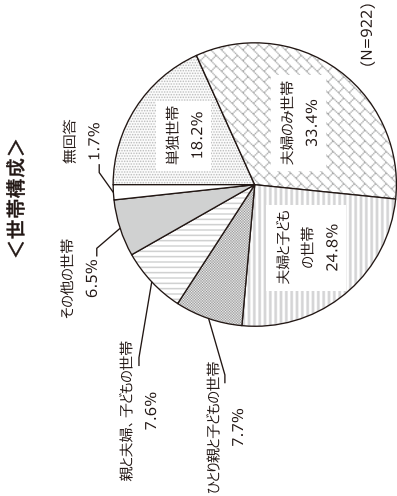
■ その他

回答	
サービス業 (9 件)	パート (5 件)
住職・僧侶・宗教関係、清掃業、自営業、事務職 (3 件ずつ)	警備業、美容業、(2 件)
食品業、リサイクル、法人理事、専門職、広告代理店 (1 件ずつ)	

工 世帯構成

問4. あなたの世帯構成に○印をつけてください。

世帯構成別では、「夫婦のみ世帯」が33.4%と最も多く、次いで「夫婦と子どもの世帯」が24.8%、「単独世帯」が18.2%と続きます。



■ その他

回答	
親との2世帯(17件)	親・子との3世帯(10件)
兄弟・姉妹と同居(6件)	その他(5件)

(2) 住まい・暮らしについて
ア 住所

問5. 現在、どこにお住いですか。ご住所をご記入ください。

現住所については、「大田町」が207件と最も多く、次いで「久手町」が121件、「仁摩町」が104件と続きます。

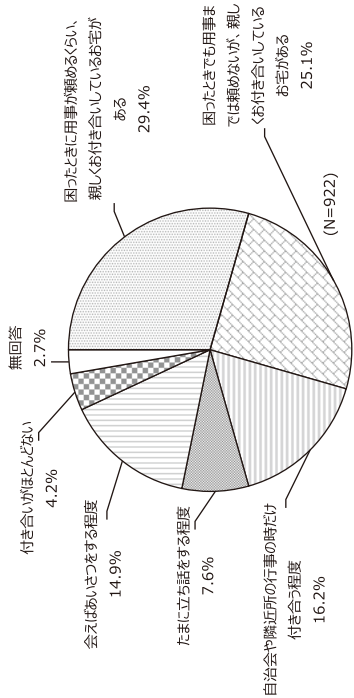
回答	件数	回答	件数	回答	件数
大田市大田町	207	大田市静間町	38	大田市大森町	11
大田市久手町	121	大田市三瓶町	37	大田市大屋町	10
大田市仁摩町	104	大田市五十猛町	34	大田市水上町	7
大田市長久町	85	大田市波根町	33	大田市大代町	7
大田市温泉津町	66	大田市鳥井町	24	大田市山口町	6
大田市川合町	44	大田市朝山町	13	大田市祖式町	5
大田市久利町	42	大田市富山町	12	住所記載なし	16

イ 近所の方々との付き合いの程度について

問6. あなたは、近所の方々との程度のお付き合いをしていますか。

近所の方々との付き合いの程度については、「困ったときに用事が頼めるくらい、親しくお付き合いしているお宅がある」が29.4%と最も多く、次いで「困ったときでも用事までは頼めないが、親しくお付き合いしているお宅がある」が25.1%、「自治会や隣近所の行事の時だけ付き合い程度」が16.2%と続き、「付き合いがほとんどない」方は4.2%あります。

＜近所の方々との付き合いの程度＞

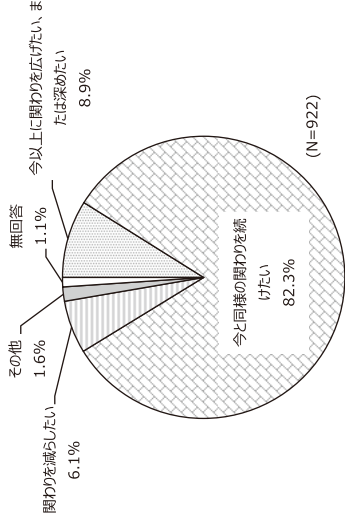


ウ 近所の方々ととの関わり方について

問7. あなたは、これからの近所の方々ととの関わりについてどうお考えですか。あてはまるものを1つ選び、○印をつけてください。

近所の方々ととの関わり方については、「今と同様の関わりを続けたい」が82.3%と最も多く、全体の約8割を占めています。「今以上に関わりを広げたい、または深めたい」は8.9%あるものの、6.1%の方は「関わりを減らしたい」と回答しています。

＜近所の方々ととの関わり方＞



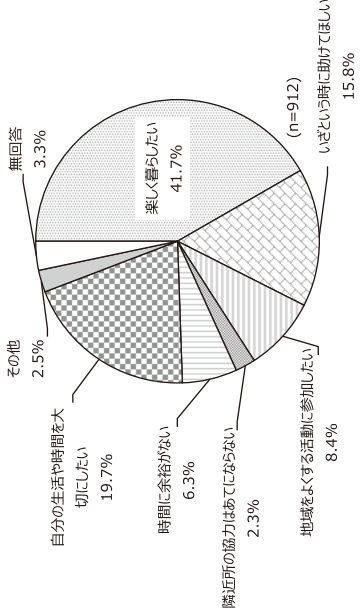
■ その他

回答	
関わりたくない(2件)	
なるべく自力で暮らしたい。	
関わりをたくても、出来ない	取捨選択をしたい
関われるような人がいない	

問8. 問7でそれぞれの選択肢を選ばれた理由は何ですか。あてはまるものを1つ選び、○印をつけてください。

選択肢を選んだ理由としては、「楽しく暮らしたい」が41.7%と最も多く、全体の約4割を占めています。次いで「自分の生活や時間を大切にしたい」が19.7%、「いざという時に助けてほしい」が15.8%と続きます。

＜選択肢を選んだ理由＞



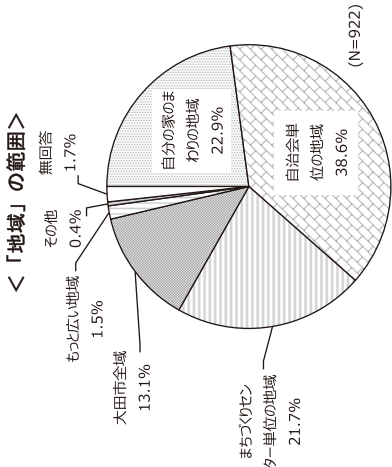
■ その他

回答	
■今と同様の関わりを続けたい	
主人が病人なのでフォローしながら自分の時間を大切にしたい	
1 番近くの家とも300m くらい離れており、普段そんなに話もしないがたまに会った時に話ができる関係は続けておきたい	
災害時や自治体活動では協力し合いたい、それ以外では深い関係を築く必要性があるのか疑問に感じるため	
田舎特有の村八分にならないようにするため	隣近所の関係を良くしたい
■関わりを減らしたい	
近所の人ともめ事があったから	
自治会の役が苦痛	
■その他	
あまり心配していない。楽しく暮らしています	
近隣の方、名前も顔も知らないため	

Ⅰ 地域について

問9. あなたの考える「地域」とはどの範囲のことをいいますか。あてはまるものを1つ選び、○印をつけてください。

地域の範囲については、「自治会単位の地域」が38.6%と最も多く、次いで「自分の家のまわりの地域」が22.9%、「まちづくりセンター単位の地域」が21.7%と続きます。



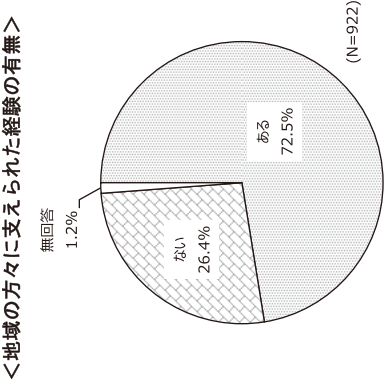
■ その他

回答	
親戚	町の範囲

オ 地域の方々に支えられた経験について

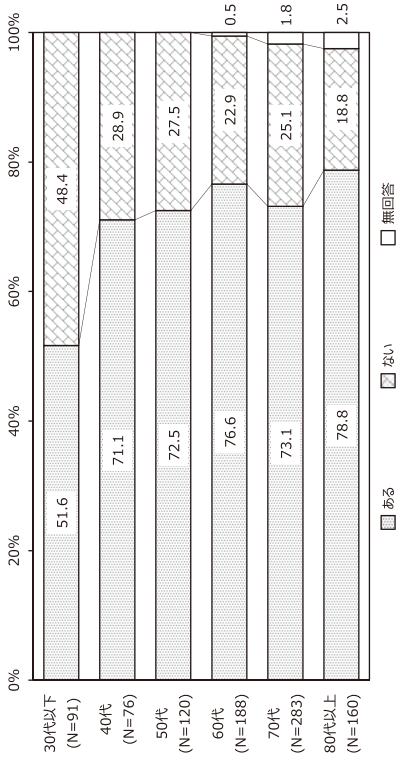
問10. あなたは、地域の方々に支えられた（助けられた）と感じることはありますか。あてはまるものを1つ選び、○印をつけてください。

地域の方々に支えられた経験については、「ある」が72.5%と全体の約7割を占めており、「ない」が26.4%となっています。



【クロス集計（年代別）】

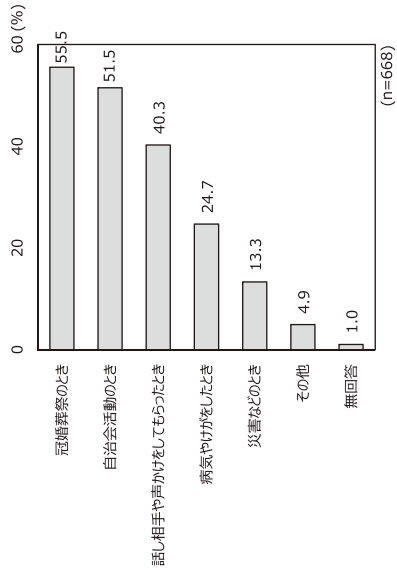
「支えられたと感じる」人は、全ての年代で半数以上となっています。



問11. 問10で「ある」を選んだ方にお伺いします。あなたが、地域に支えられた（助けられた）と感じたのはどんなときでしたか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

支えられたと感じたときについては、「冠婚葬祭のとき」が55.5%と最も多く、次いで「自治会活動のとき」が51.5%、「話し相手や声かけをしてもらったとき」が40.3%と続きます。

＜支えられたと感じた状況＞



■ その他

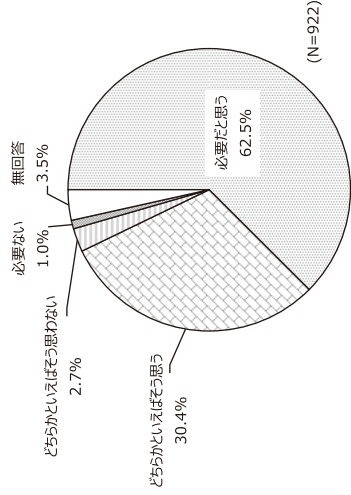
回答	
日常生活の困りごと(買物、草刈り・倒木、ゴミの収集、除雪、留守にする時等) (13 件)	
地元の活動(ボランティアサークル、同好会活動等)でお手伝いをしてもらった (6 件)	
子ども達の登下校の風守り(3 件)	子育て(子どもが小さい頃、サロン等) (4 件)
野菜等をもらう・あげる (2 件)	
主人が風呂で上れなかった時、近所の消防署を避難した方をお願いしてすぐに来てもらい助けてもらいました 忘れません	
以前空き家だった時、冬時水道管が凍結し破裂してしまっただが、近所の人に助けられて事をきを得た 当時は県外に居住していたのでとても助かった	

カ 助け合いの必要性について

問12. あなたは、地域での助け合いの必要性をどう思いますか。あてはまるものを1つ選び、○印をつけてください。

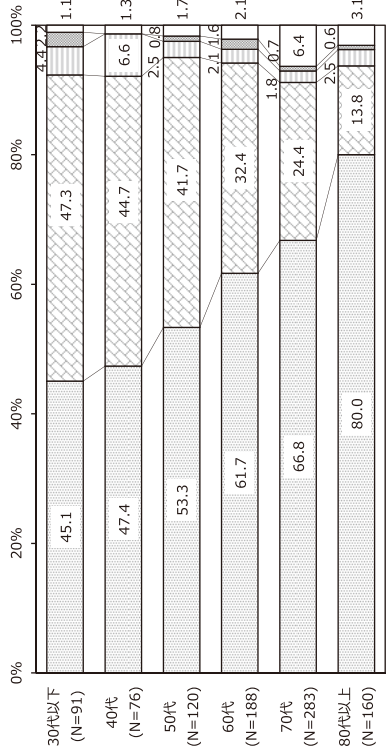
地域での助け合いの必要性については、「必要だと思う」が62.5%と最も多く、全体の約6割を占めています。次いで「どちらかといえばそう思う」が30.4%と9割以上の方が必要性を感じています。

＜地域での助け合いの必要性＞



【クロス集計（年代別）】

「地域での助け合いが必要」と思う割合は、年代が高くなるほど多くなっており、「どちらかといえばそう思う」を加えた割合は、どの年代でも概ね90%程度となっています。



■ 必要だと思う □ どちらかといえばそう思う ■ 必要ない □ 無回答

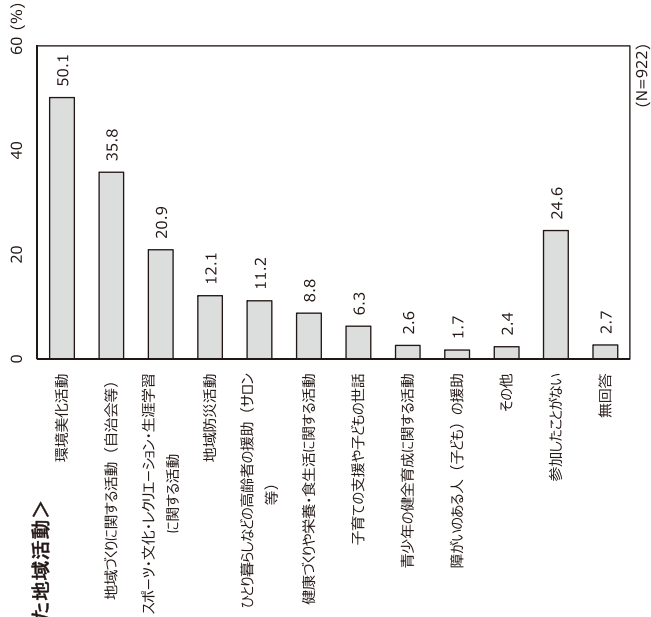
(3) 地域活動について

ア 参加した地域活動について

問13. あなたがこの2～3年の間に参加した地域活動は何ですか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

参加した地域活動については、「環境美化活動」が50.1%と最も多く、次いで「地域づくりに関する活動（自治会等）」が35.8%、「スポーツ・文化・レクリエーション・生涯学習に関する活動」が20.9%と続きます。「参加したことがない」方は24.6%となっています。

＜参加した地域活動＞

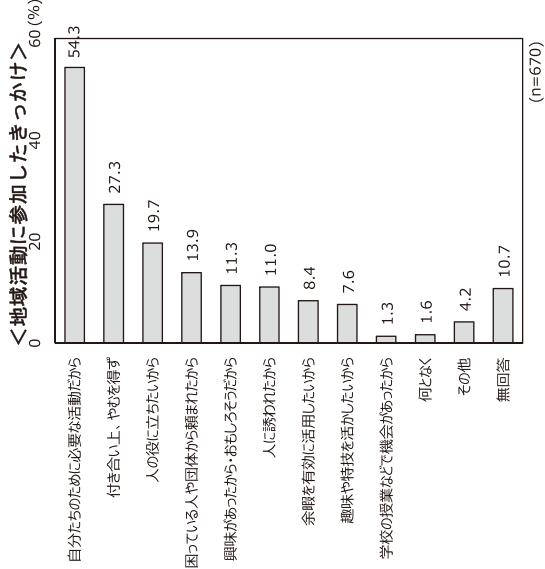


■ その他

回答	
地域での行事等（神社の祭り、お寺、葬儀、自治会行事）	地域での役員等（用水、広報配付）
ボランティア活動（社会を明るくする運動、フードドライブ、子ども見守り隊、通学路の草刈り）	
家庭内で問題をかかえているのではないかとと思われる家庭を、民生委員さんなどにつなげる	
福祉活動（高齢者通いの場、デイサービス）	文化活動（講演会）
以前はあるが今は参加することがなくなった	コロナで外出を控えたので地域活動に参加していない

問14. 問13で「参加したことがない」以外を選んだ方にお伺いします。あなたが地域活動に参加したきっかけは何ですか。あてはまるものを3つ以内で選び、○印をつけてください。

地域活動に参加したきっかけについては、「自分たちのために必要な活動だから」が54.3%と最も多く、次いで「付き合いう上、やむを得ず」が27.3%、「人の役に立ちたいから」が19.7%と続きます。



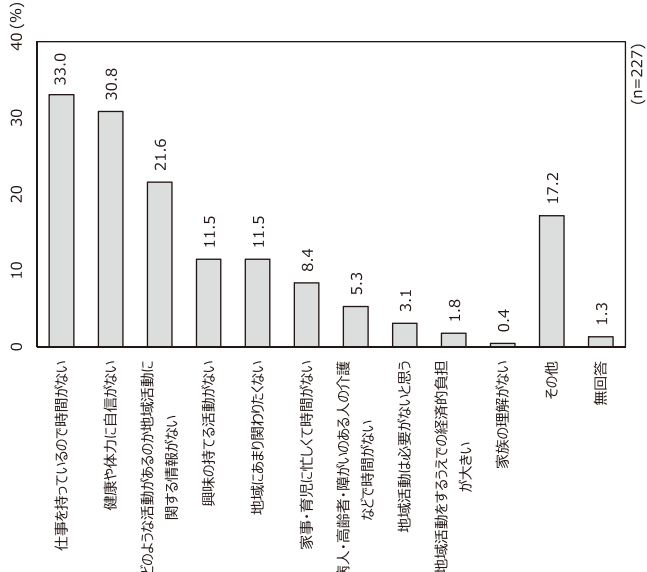
■ その他

回答	
自治会役員（防災委員・消防団等）になったため（11件）	毎年している活動だから（4件）
地域の当番であったから（2件）	人と関わることは大事だから（2件）
参加すると生活上参考になるから	地域と関わりをもうと思ったから
親が高齢になり活動に参加しにくくなったため、代わりに	いつも参加して楽しいから
出身者ではないので地域を知るため	

問15. 問13で「参加したことがない」を選んだ方にお伺いします。あなたが地域活動に参加しない理由は何ですか。あてはまるものをすべてに○印をつけてください。

地域活動に参加しない理由については、「仕事を持っているので時間がない」が33.0%と最も多く、「健康や体力に自信がない」が30.8%と続きますが、「どのような活動があるのか地域活動に関する情報がない」も21.6%あります。

＜地域活動に参加しない理由＞



■その他

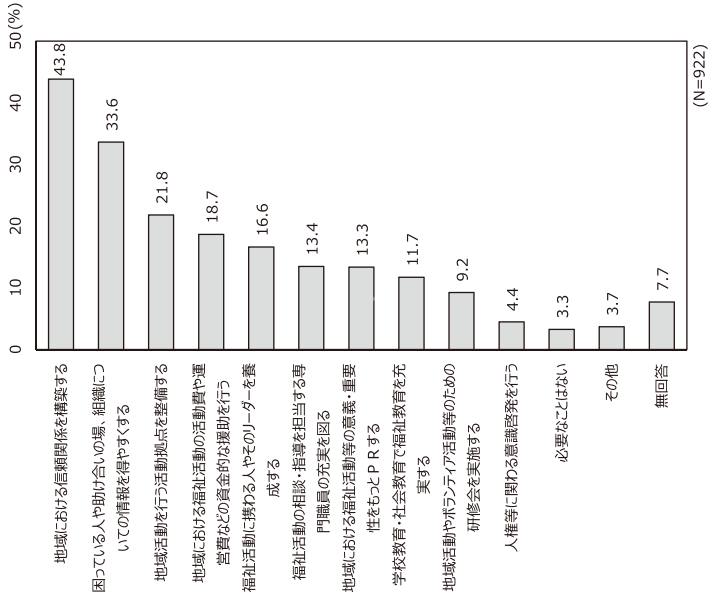
回答	
足腰が悪い等身体的に難しいため(12件)	他にしてくれる家族がいるから(5件)
この地域に引っ越してきて間もないため(5件)	時間がないから(2件)
イベント・活動などが少ない、コロナで活動が中止(3件)	認知症の家族がいるので一人にすることが出来ないため
仕事上、感染症対策を行う必要があるため	交通の便がないし、他地区との人間関係を好まないため
他の地域との二重生活で行ったり来たりしているので、地域活動に参加するタイミングがなかなか合わないため	

イ 地域活動を活発にするために必要な取組みについて

問16. あなたは、住民による地域活動を活発にするためにはどのようなことが必要だと思いますか。あてはまるものを3つ以内で選び、○印をつけてください。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

地域活動を活発にするために必要な取組みについては、「地域における信頼関係を構築する」が43.8%と最も多く、次いで「困っている人や助け合いの場、組織についての情報を得やすくする」が33.6%、「地域活動を行う活動拠点を整備する」が21.8%と続きます。

＜地域活動を活発にするために必要な取組み＞



■その他

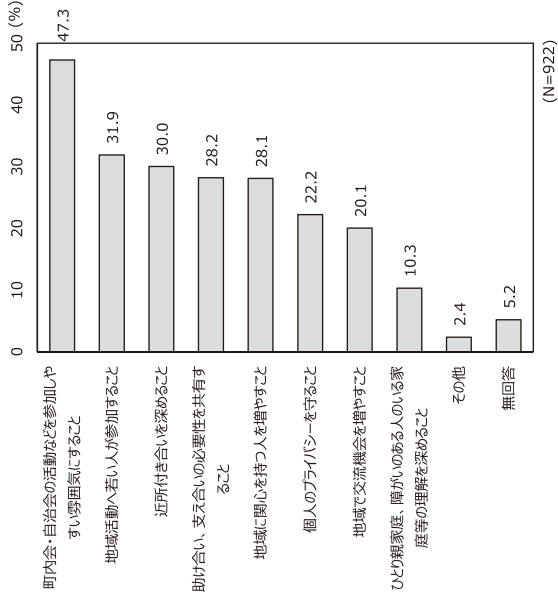
回答	
人が少ないので人を増やす(5件)	将来のリーダーづくり(子どもや若い人を参加させる)(3件)
精神的負担を減らすため回数や時間を少なくする(2件)	複数人で継続出来る雰囲気が大切
市職員、関連団体職員が率先して関わる	自分からとびこまなければ、何も始まらない
小学校を全世代で使う	他人を思いやる気持ちが必要
危機意識の共有(必要性を感じさせる)	個の時代に進むと思われ、活発になる事はないと思う
地震や水害など自然災害時の避難場所や互助活動などをミュレーションし、自治会総会など多くの人が情報を共有する	
市民にお金を還元する(助成金や安く利用できるサービスを)	

ウ 住みよい地域社会について

問17. あなたは、地域の人々がお互いを合わせて、住みよい地域社会を実現していくうえで課題となることは何だとお考えですか。あてはまるものを3つ以内で選び、○印をつけてください。

住みよい地域社会を実現するうえでの課題については、「町内会・自治会の活動などを参加しやすい雰囲気にする」が47.3%と最も多く、次いで「地域活動へ若い人が参加すること」が31.9%、「近所付き合いを深めること」が30.0%と続きます。

＜地域社会を実現するうえでの課題＞



■ その他

回答	
同年代の人がいない、自治会の人との交流がない	人がいないので何もできない
自治会費などの資金面	
若い人を増やす・定住(2件)	誰でも立ち寄れる場(例えば公園)をつくる
全地域で小さな拠点づくりに取り組む	高齢者が多いので自治会を薄らしてまとめる
今までの活動に固執せず、時代にあった活動に適宜変更する	
活動の任意性を確保し、できる人ができる時にできるという共通意識を持つ。できない人を責めない	
みんな助け合いの精神はもっているが、とにかく仕事が忙しく自分のことで精一杯。ゆとりある生活になれば、地域社会にまで関心がいけない	

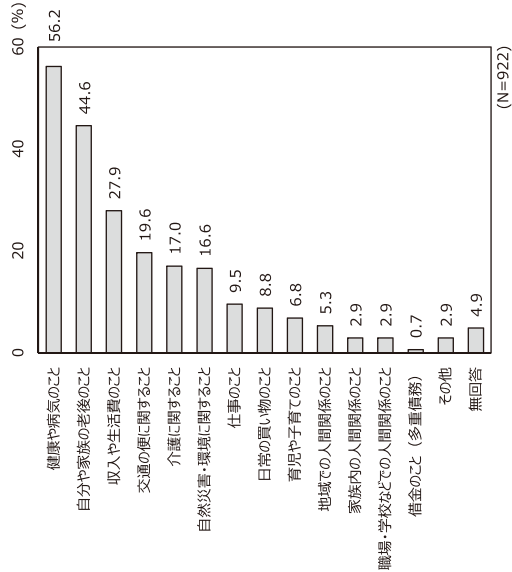
(4) 悩み・不安の相談について

ア 日頃抱えている悩みや不安について

問18. あなたが日頃抱えている悩みや不安はどのようなことですか。あてはまるものを3つ以内で選び、○印をつけてください。

日頃抱えている悩みや不安については、「健康や病気のこと」が56.2%と最も多く、次いで「自分や家族の老後のこと」が44.6%、「収入や生活費のこと」が27.9%と続きます。

＜日頃抱えている悩みや不安＞



■ その他

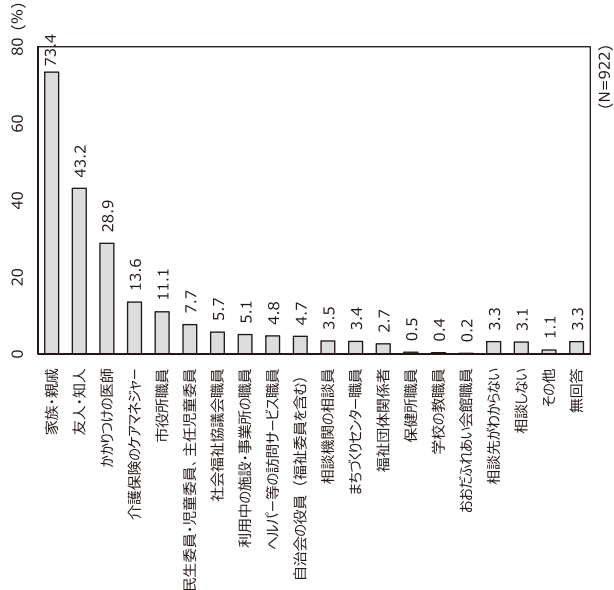
回答	
空き家問題(2件)	害獣被害(2件)
子どもの将来のこと(2件)	近くにスーパーがないこと(2件)
地域の将来(若い人がいない、市の財政、政治)(3件)	バスが通らないこと
会合の場所が減ったこと	
所有する空き家や田畑などの始末。あとを継ぐものがおらず、処分したくても必要とする人などいない	
不動産を相続放棄できないだろうかなど、老後のことを考えると頭が痛い	

イ 相談先について

問 19. あなたは、日常生活での不安や福祉サービスの利用などを誰に相談しますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

日常生活での不安や福祉サービスに関する相談先については、「家族・親戚」が73.4%と最も多く、次いで「友人・知人」が43.2%、「かかりつけの医師」が28.9%と続きます。

＜日常生活での不安や福祉サービスについての相談先＞

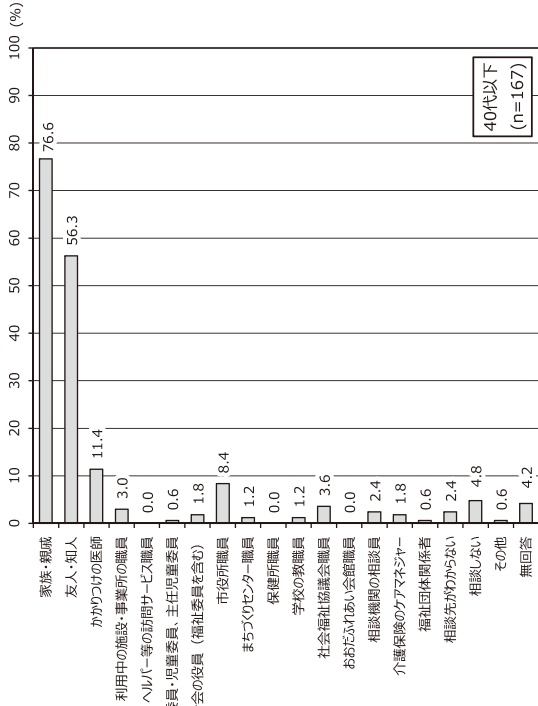


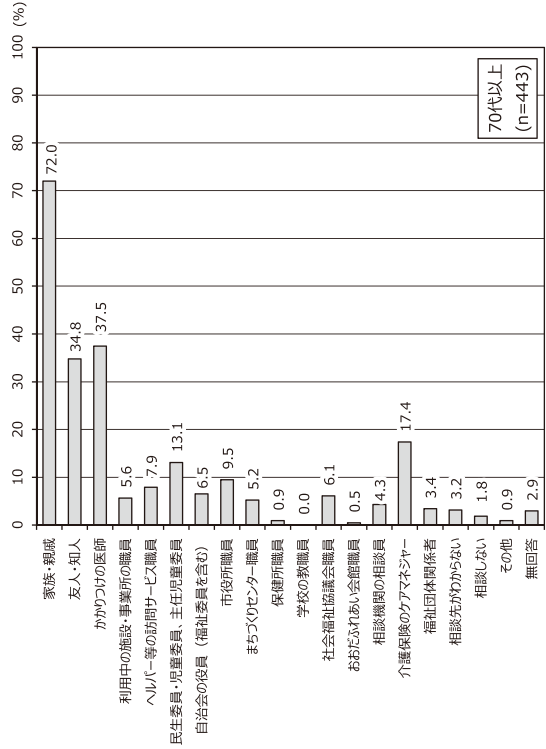
■ その他

回答	
ネット、YouTube (3 件)	相談事に応じていろいろ (2 件)
	相談内容と窓口 (相談先) がわかるものと良い

【クロス集計（年代別）】

年代を 3 区分（40代以下・50～60代・70代以上）で見ると、70代以上の特徴としては「かかりつけの医師」、「民生委員」、「介護保険のケアマネジャー」の割合が比較的多くなっています。





ウ 相談環境について

問20. 相談しやすい環境（相談相手・場所）について、ご意見があればご記入ください。

回答	
【相談相手】	【相談場所】
電話・メール・ライン・インターネットでの対応（8 件）	身近な施設で個室（15 件）
県・市職員（3 件）	プライバシーが守られる環境（11 件）
身近な友人に相談する（2 件）	自宅で聞いてほしい（8 件）
相談しやすい雰囲気があるところ（人）（2 件）	市役所内で相談出来る場所（2 件）
【その他】	
休日でも利用できるとよい（4 件）	
相談したくても誰に（どこに）相談して良いのかわからない（4 件）	

(5) 情報サービスについて

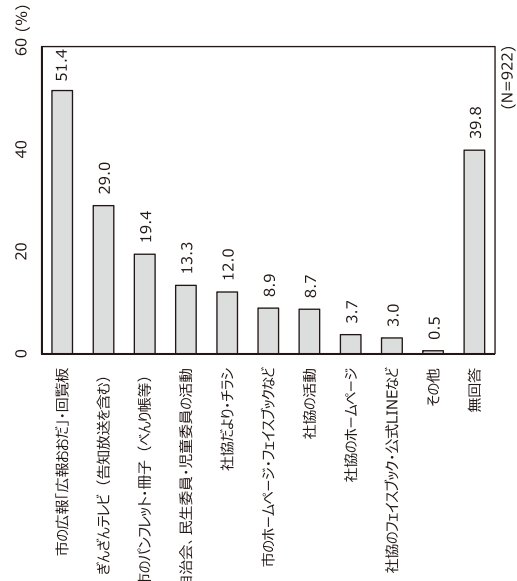
ア 情報サービスの利用・充実について

問21. あなたは、大田市・大田市社会福祉協議会（以下「社協」という。）が提供する福祉サービスの情報などを得るために役立ったものや役立っているもの、また情報発信を充実してほしいものは何ですか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

福祉サービスの情報を得るために役立ったものや役立っているものについては、「市の広報『広報おおだ』・回覧板」が51.4%と最も多く、次いで「ぎんざんテレビ（告知放送を含む）」が29.0%、「市のパンフレット・冊子（べんり帳等）」が19.4%と続きます。

情報発信を充実してほしいものについては、「市の広報『広報おおだ』・回覧板」が16.2%と最も多く、次いで「ぎんざんテレビ（告知放送を含む）」が12.0%、「市のホームページ・フェイスブックなど」が10.7%と続きますが、1／3以上が「無回答」となっています。

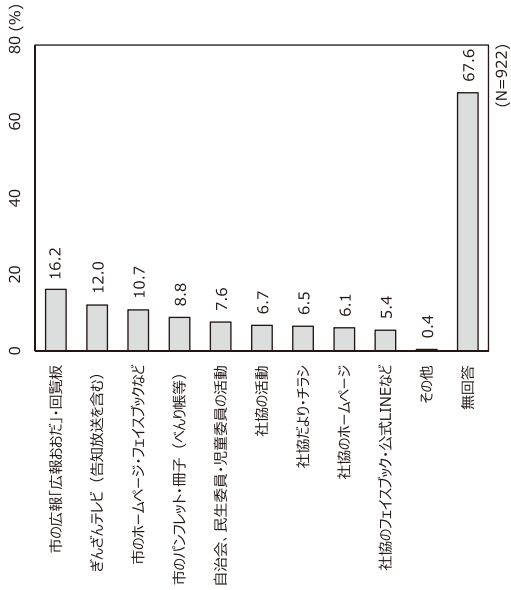
＜役立った・役立っている＞



■その他

回答	
知人からの情報	なし（3 件）

＜充実してほしい＞



■その他

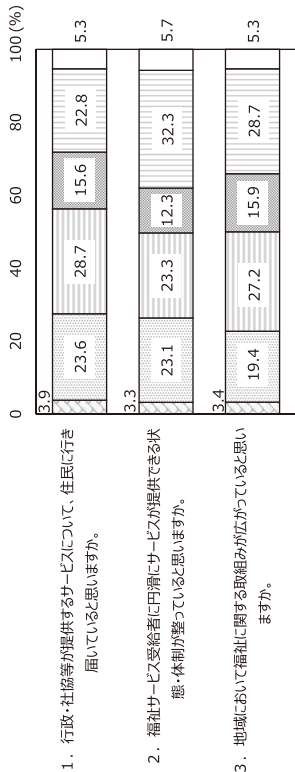
回答	
介護施設情報	

イ 各種サービスの満足度について

問22. あなたは、以下の項目に対してどう思いますか。あてはまるものを1項目1つずつ選び、○印をつけてください。

大田市の各種サービスの満足度については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計はいずれも3割に満たない状況です。

＜大田市のサービスについて＞



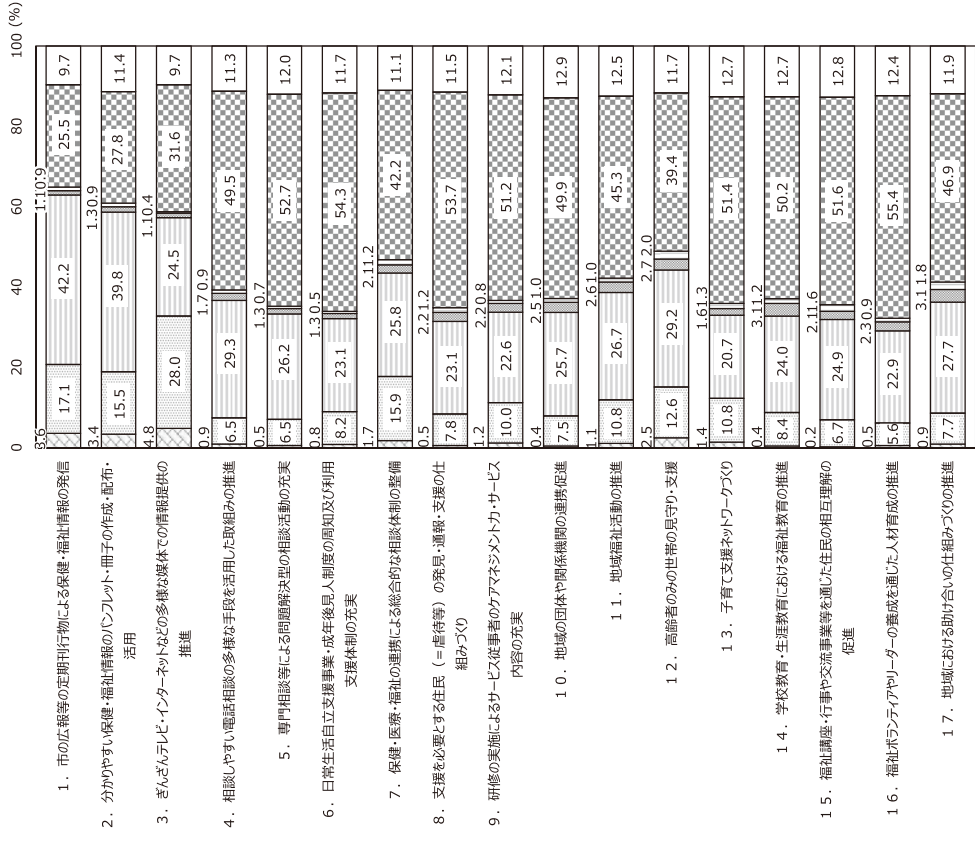
☐ そう思う ☐ どちらかといえばそう思う ☐ どちらかといえばそう思わない ☐ そう思わない ☐ 分からない ☐ 無回答

ウ 各種サービスの進捗について

問23. あなたは、以下の項目が以前（5年くらい前）と比較して、どの程度進んだと思いますか。あてはまるものを1項目1つずつ選び、○印をつけてください。

大田市の取組みの進捗については、全体的に「変わらない」「分からない」が多く、「ぎんざんテレビ・インターネットなどの多様な媒体での情報提供の推進」の項目だけが「進んだ」、「少し進んだ」の合計が3割を超えています。

＜大田市の取組みの進捗について＞



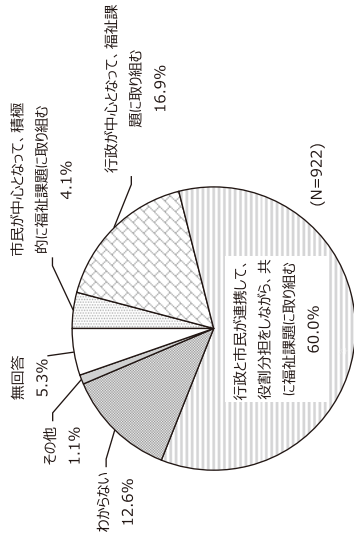
(6) 地域福祉について

ア 行政と地域住民の関係性について

問24. あなたは、地域福祉を充実させていく上で、行政と地域住民とはどのような関係であるべきだと思いますか。あてはまるものを1つ選び、○印をつけてください。

行政と地域住民の関係性については、「行政が中心となって（積極的に）福祉課題に取り組む」が21.0%、「行政と市民が連携して、役割分担をしながら、共に福祉課題に取り組む」が60.0%となっています。

＜行政と地域住民の関係性＞



■ その他

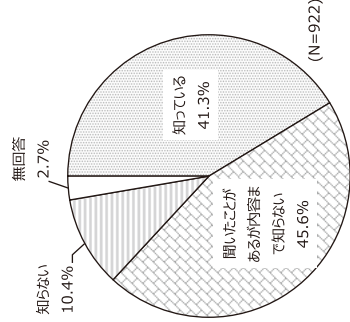
回答	
行政がやるべき！地域住民はボランティアだから負担	
「市民が中心となって、積極的に福祉課題に取り組む」べきとは考えるが、難しい	

イ 各委員の制度や活動について

問25. あなたは、民生委員・児童委員、主任児童委員の制度や活動を知っていますか。あてはまるものを1つ選び、○印をつけてください。

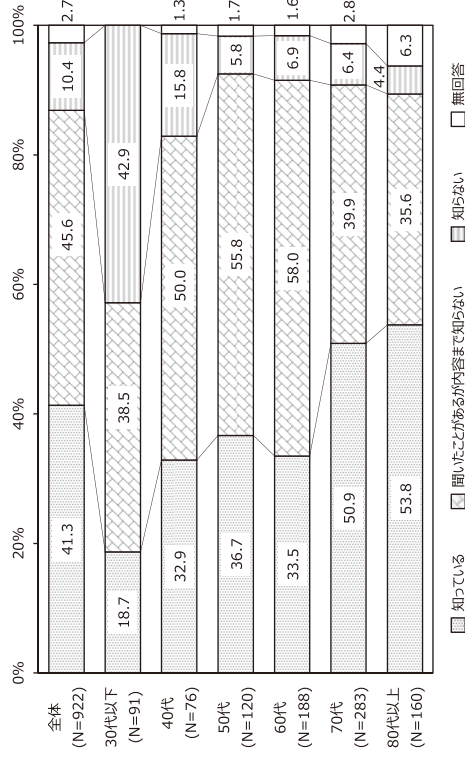
民生委員・児童委員、主任児童委員の制度や活動について、「知っている」は41.3%、「聞いたことがあるが内容まで知らない」が45.6%、「知らない」が10.4%、「無回答」が2.7%です。

<民生委員・児童委員、主任児童委員の制度や活動について>



【クロス集計（年代別）】

30代以下では4割以上が「知らない」と回答していますが、40代以降は「知っている」、「聞いたことがある」割合が高くなり、70代以上は半数以上が「知っている」と回答しています。

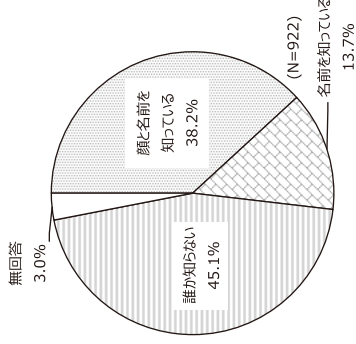


ウ 各委員の担当者について

問26. あなたの地域を担当されている民生委員・児童委員、主任児童委員は誰か知っていますか。あてはまるものを1つ選び、○印をつけてください。

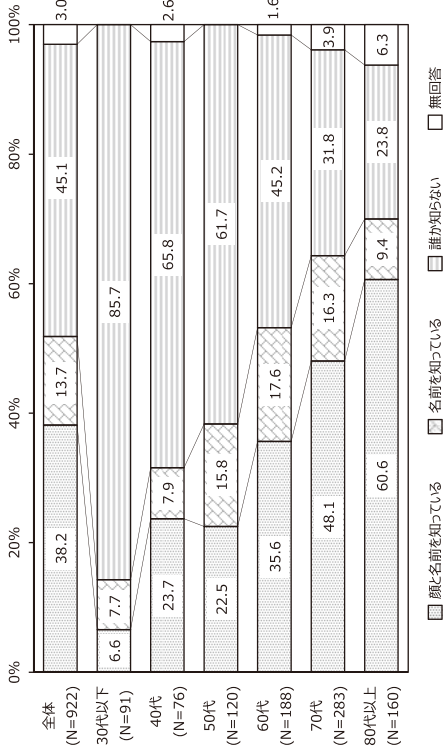
民生委員・児童委員、主任児童委員の担当者について、「顔と名前を知っている」は38.2%、「名前を知っている」は13.7%で、「誰か知らない」が45.1%と最も多くなっています。

<民生委員・児童委員、主任児童委員の担当者について>



【クロス集計（年代別）】

年齢とともに「顔や名前を知っている」割合は高くなり、特に70代以上は「顔も名前も知っている」割合が多くなっています。

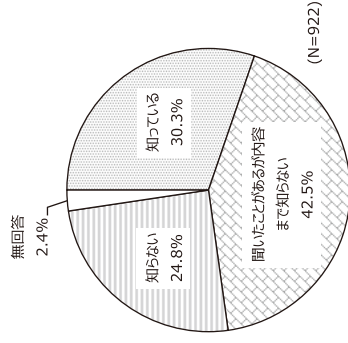


工 保護司について

問27. あなたは、保護司の制度や活動を知っていますか。あてはまるものを1つ選び、○印をつけてください。

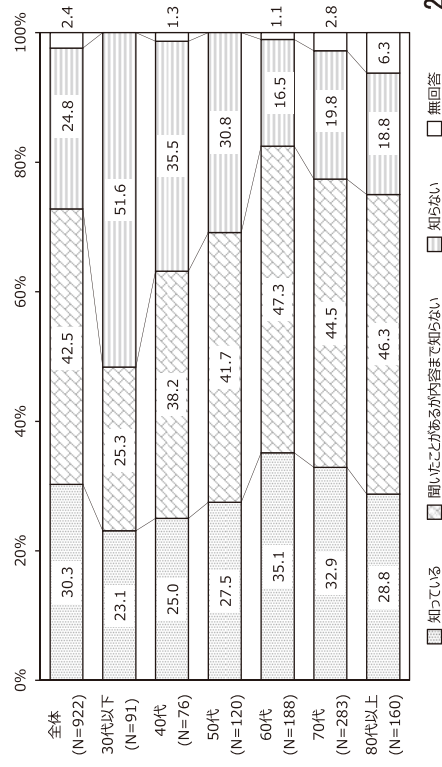
保護司の制度や活動について、「知っている」は30.3%、「聞いたことがあるが内容まで知らない」が42.5%、「知らない」が24.8%となっています。

<保護司の制度や活動について>



【クロス集計 (年代別)】

保護司の制度や活動について「知っている」、「聞いたことがあるが内容まで知らない」はいずれも60代が最も多く、30代以下では半分以下の人が「知らない」と回答しています。

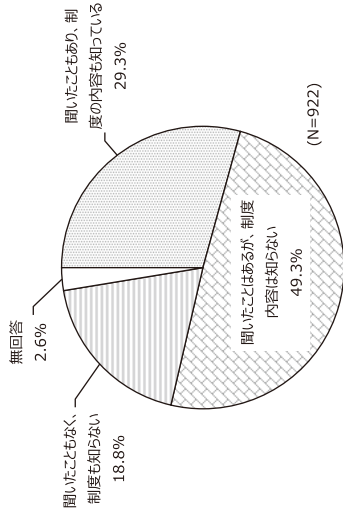


オ 成年後見制度について

問28. あなたは、「成年後見制度」について知っていますか。あてはまるものを1つ選び、○印をつけてください。

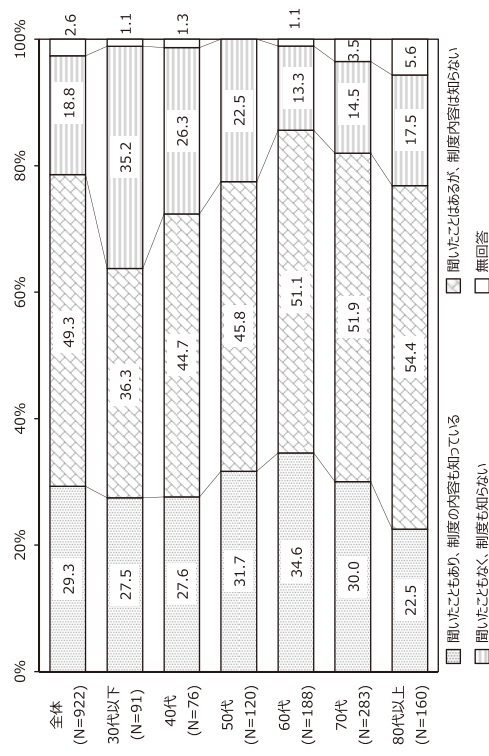
「成年後見制度」について、約8割の人が「聞いたことがあるが、制度の内容も知っている」は29.3%、「聞いたことはあるが、制度内容は知らない」が49.3%、「聞いたこともなく、制度も知らない」が18.8%、「聞いたこともなく、制度の内容も知っている」が2.6%となっています。

<「成年後見制度」について>



【クロス集計 (年代別)】

市民後見制度について「聞いたことがある」割合は50代以上で高く、「制度の内容も知っている」のは60代が34.6%と最も高くなっています。

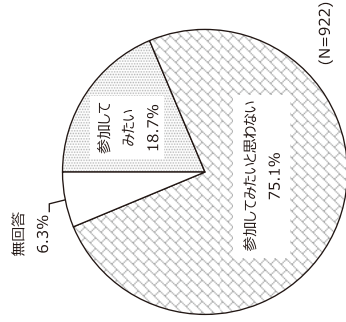


カ 成年後見制度を学ぶ機会について

問29．成年後見制度について学ぶ機会があれば参加してみたいですか。あてはまるものを1つ選び、○印をつけてください。

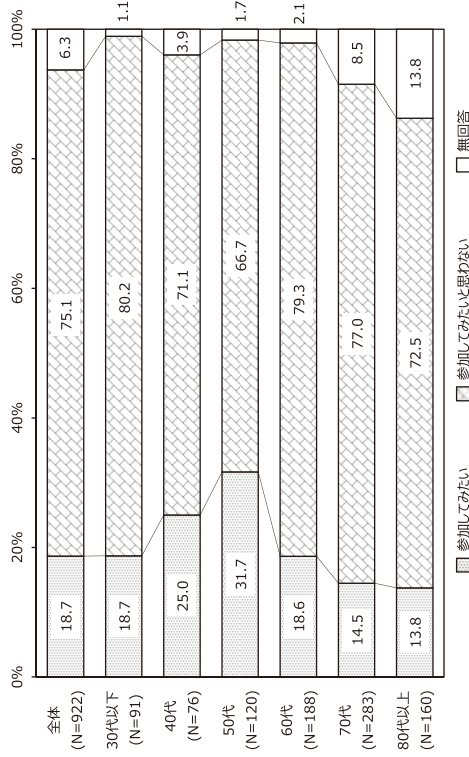
成年後見制度について学ぶ機会については、「参加してみたい」は18.7%で、「参加してみたいと思わない」が75.1%となっています。

＜成年後見制度についての学習機会への参加意向＞



【クロス集計（年代別）】

「参加してみたい」と回答しているのは、50代が31.7%と最も高く、次いで40代が25.0%となっています。

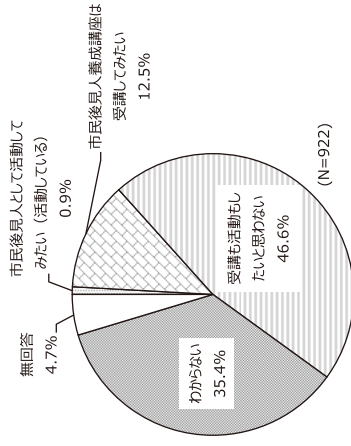


キ 市民後見人について

問30．大田市では、成年後見制度の担い手として、市民後見人の養成を行っています（全国的にも先進的な取組です）。あなたは、市民後見人養成講座を受講し、市民後見人として活動してみたいですか。あてはまるものを1つ選び、○印をつけてください。

市民後見人への関心については、「市民後見人として活動してみたい（活動している）」は0.9%にすぎず、「市民後見人養成講座を受講してみたい」が12.5%、「受講も活動もしたいと思わない」が46.6%となっています。

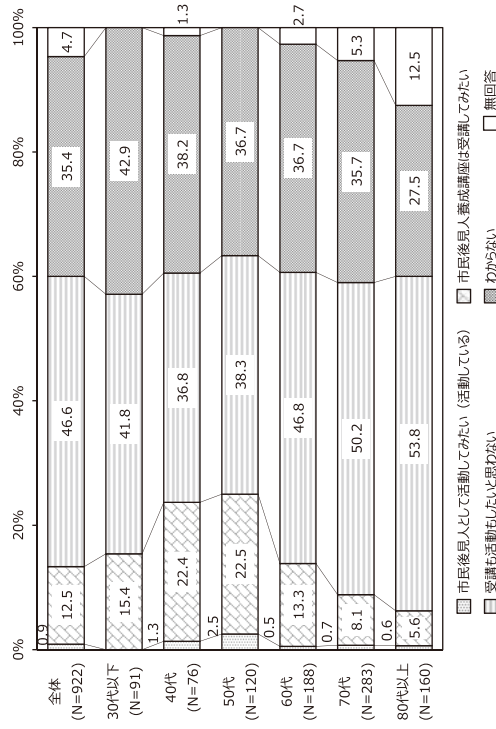
＜市民後見人としての活動意向＞



【クロス集計（年代別）】

問29と同様、市民後見人への関心（「市民後見人として活動してみたい」「市民後見人養成講座を受講してみたい」）は40代・50代で高くなっています。

※全体では、13.4%の人が「活動」「受講」してみたいと回答



(7) 自死・虐待・貧困について

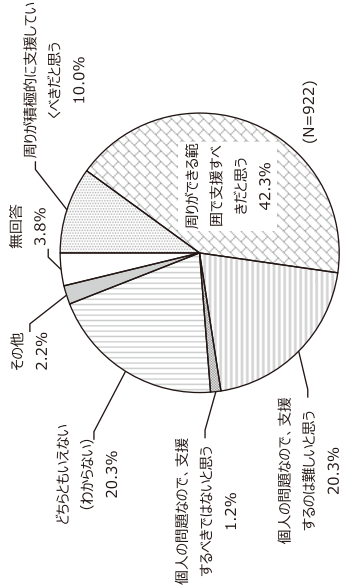
ア 自死について

問31. 鳥根県の自殺死亡率（人口10万人当たりの自死者数）は、近年低下傾向にあり、全国順位は20～30位で推移しています。

大田市においては年間平均10人の自死者があり、特に男性の働き盛り世代と80歳以上の女性が多くなっています。あなたは、自死対策についてどうお考えですか。あてはまるものを1つ選び、○印をつけてください。

自死対策については、「周りができる範囲で支援すべきだと思う」が42.3%と最も多く、次いで「個人の問題なので、支援するのは難しいと思う」、「どちらともいえない（わからない）」が20.3%と続きます。

＜自死対策について＞



■ その他

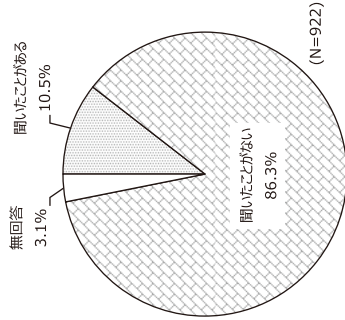
回答	
相談先の充実（カウンセラーの知識があり秘密厳守）（2件）	孤独な環境を作らない
適度な支援は必要だが、支援のしすぎは良くない	できるだけ多くの友達（話し相手）を作るよう支援する
できる範囲で支援すべきだとは思いますが個人的な問題にどこまで立ち入るか難しいと思う	

イ 虐待について

問32. あなたがお住まいの地域の出来事として、子ども・高齢者・障がい者に対する家族等による虐待について、聞いたことがありますか。あてはまるものを1つ選び、○印をつけてください。

子ども・高齢者・障がい者に対する家族等による虐待について、「聞いたことがある」は10.5%で、「聞いたことがない」が86.3%となっています。

＜虐待について＞

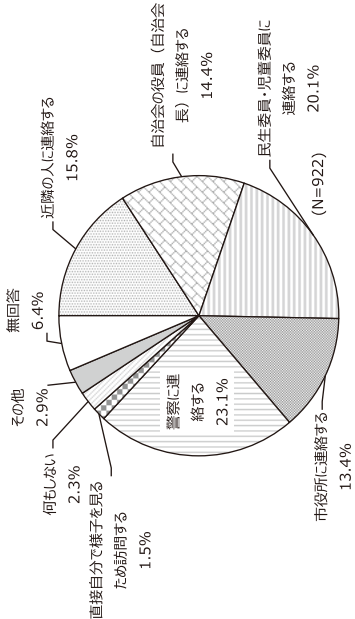


ウ 虐待の対応について

問33. もし、あなたの周囲で虐待が発生しているとあなたが自身が思われたら、最初どのような対応しますか。あてはまるものを1つ選び、○印をつけてください。

虐待の対応については、「警察に連絡する」が23.1%と最も多く、次いで「民生委員・児童委員に連絡する」が20.1%、「近隣の人に連絡する」が15.8%と続きます。

＜虐待の対応について＞



■ その他

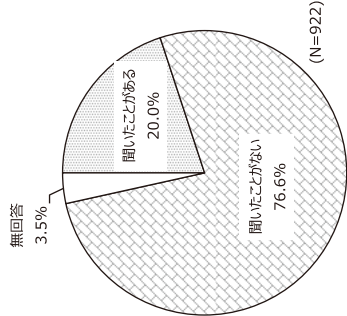
回答	
自身の親・家族に相談し、対応を思案する(4件)	児童相談所に連絡(3件)
わからない・何もできない(5件)	その時になってみないと分からない(2件)
社協へ TEL	まちづくりセンター
状況によって相談先が変わる	仕事上虐待に気づくことが多く、職場スタッフに相談する
虐待かとも思うことがあれば、本人に会ったとき声をかける	
虐待はとてもデリケートな問題だと思うので、慎重に行動しながら信頼できる人(地域外)にまず相談をする	

エ 子どもの貧困について

問34. わが国の子どもの貧困の状況が先進国のなかでも厳しいとの指摘があります。島根県でも生活保護や就学援助など経済的支援を受けている子どもやひとり親の家庭の子どもが増えており、子どもの貧困が拡大しています。あなたがお住まいの地域の出来事として、このような状況を聞いたことがありますか。あてはまるものを1つ選び、○印をつけてください。

子どもの貧困について、「聞いたことがある」は20.0%で、「聞いたことがない」が76.6%となっています。

＜子どもの貧困について＞



市民アンケート調査 自由意見

問35. あなたが、地域の福祉（生活）問題について、日頃感じていることや提案がありましたら、自由にご記入ください。

回答	
自治会・地域活動・関わり方について(55)	福祉・医療サービスについて(48)
行政に対する要望・意見について(34)	高齢化・少子化について(16)
住まい・まちづくりについて(15)	情報について(14)
交通について(12)	相談について(11)
生活について(8)	こどもの教育・子育てについて(5)
特になし・わからない(10)	その他(11)

**第4次 大田市地域福祉計画・
地域福祉活動計画**

令和7(2025)年度～令和11(2029)年度

令和7年3月

大 田 市
大田市社会福祉協議会